



貴船神社の絵馬

りっとう 再発見 ⑭

陶器の土馬 ～小柿遺跡～

岡出土文化財センター

☎ 553-3359 FAX 553-3514

今回は、昨年12月から本年2月に小柿四丁目の宅地造成に先立つ発掘調査で出土した土馬を紹介いたします。

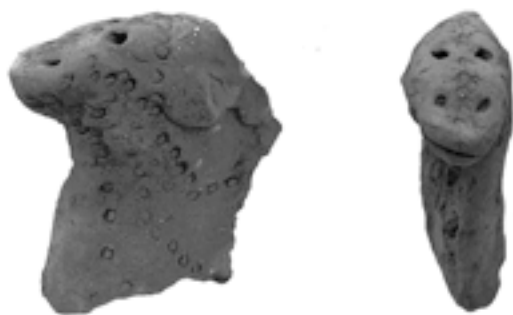
土馬は、馬の形をした小さな焼物で、素焼きのものと窯で焼いた陶器製品があります。市内の出土品では、これまでに素焼の土馬が10点、陶器製が1点出土しているのですが、今回発見された土馬は2点目の陶器製です。奈良時代（8世紀）を中心に作られ、その用途は主に「雨乞い」のため水神に捧げられたと考えられ、遺跡からは川や溝などの水に関わる場所から出土します。

「日本書紀」には、「日照りが続き、牛馬を殺し神社の神に捧げた」という記事があるように、馬をいけにえにする雨乞いが行われていたことが分かります。

また、「続日本紀」には日照りの時には降雨の祈願に黒毛馬を、長雨の時には止雨の祈願に白馬を水神に捧げた記事が度々記載されています。

しかし、雨乞いのたびに大切な馬を殺すのは困難であり、土馬などで代用されるようになったようです。奈良時代にはすでに板に馬を描いた「絵馬」も現

れ、現在見るさまざまな図柄の絵馬の始まりとなっています。小柿遺跡の土馬は河川跡から出土したので、やはり水神に降雨を祈って捧げられたと考えられます。土馬は壊される（殺される）もので、頭部のみが発見されました。一見稚拙な造形に見えますが、竹管文で手綱などをあらわしている丁寧なつくりになっています。



小柿遺跡出土の土馬（横顔・正面）

《治田西小学校》「おもてなしの心」

岡学校教育課

☎ 551-0130 FAX 551-0149

体験が終ると、「ありがとうございました」の言葉や正座のままお礼をする姿が自然と子どもたちの間から出ました。これが、「おもてなしの心」のすごさなのかもしれません。12か条の中にある「ありがとう」の言葉が自然と出てくる雰囲気作り大切さを学んだ貴重な体験でした。



よりよく生活するための12か条 ⑬

